

# 【実践報告3】愛知県立東浦高等学校

## 1 はじめに

東浦高校は愛知県南西部に位置する知多半島の付け根にある開校50年目の普通科高校である。平成22年度からは社会に必要な人材育成に向け特色あるカリキュラムを編成した情報活用コース、平成24年度からは特別進学類型を設置し、生徒の多様な進路希望に応えてきた。

学校の経営方針を「生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する」として、それに沿って教育活動を行っている。生徒は基本的な生活習慣が確立しており部活動も活発であるが、一方で家庭学習の習慣が不十分であり、学習面に対する課題が見られる。本研究の取組を、全職員が学校教育目標に沿った改善や継続的な取組、仕組みづくりをするきっかけとしていきたい。

## 2 実践

### (1) グランドデザインの周知と教育目標の共有

グランドデザインとは、各学校が自校の目指す学校像や育成したい生徒像を描き、その実現を図るため、学校教育全体の中でどのような方策を考え、組織的に取り組んでいるかを示したものである。

本研究は平成30年度から2年間実施された「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」を引き継ぐ形で実施されており、その研究の中でグランドデザインの策定を三つのステップに分けて行った（資料1）。

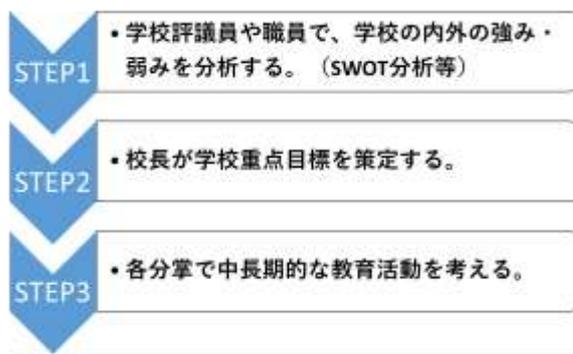
一つ目に、学校評議員や職員で、学校の内外の強み・弱みの分析を行った。本校では現職研修として、職員全員で学校の特色や生徒の個性等の強み、学習状況や生徒を取り巻く環境等の弱みを考えた。その上で克服したい事項、重点を置きたい事項の話し合いを行った。また、学校評議員の方からは、校外からの評価や今後の教育活動における要望などを聴取し、学校の内外の現状を明らかにした。

二つ目は、その活動を踏まえ、学校長が学校重点目標を策定し、学校として力を入れる事項を明らかにした。

三つ目は、その重点目標を踏まえ、各分掌で中長期的な視点で教育活動を考えた。

結果、東浦高校は「生徒がよい表情で、誇りをもって登下校し、大きく成長できる学校を目指す」「厳しい中にも愛情のこもった指導を粘り強く行う」の二つを基礎にして東浦高校グランドデザイン（資料2）を策定することとなった。

【資料1 グランドデザインの策定手順】



【資料2 東浦高校グランドデザイン】



また、グランドデザインは策定するだけでなく、生徒・保護者・地域住民と共有することが重要である。まず、生徒に対してグランドデザインを職員室や教室などさまざまな場所に掲示することで周知を図ったが、文字数が多く読んでもらえなかった。このことから本校情報ビジネスコースの授業である「情報デザイン」の題材として、より周知しやすい簡易版グランドデザインの作成を依頼した。その結果出来上がった簡易版グランドデザイン（資料3）を教室に掲示したり学校案内の冊子に掲載したりすることで、以前より広く周知できるようになり、職員も生徒も同じ目標に向かって教育活動を進める意識をもつようになった。

## (2) 目標に基づくカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」という意味である。これは従来、学年目標や教科ごとの目標、分掌ごとの目標を設定し、さまざまな教育活動に取り組むことで実現してきたことである。よって新たな取組として、今後も継続的かつ体系的に意味のある活動として取り組むため、PDCAサイクルの確立に努めた。

PDCAサイクルはグランドデザインに基づいて目標を設定し、その目標が達成できるよう教育活動を実施し、その進捗を評価して、次年度への改善に繋げる活動であるから、ワークシートを作成して、教科ごと、学年ごと、分掌ごとに取り組めるようにした。目標に対する評価方法としてはカリキュラム・マネジメントアンケート（資料4）を実施した。

グランドデザインに関しては生徒と職員両方に、学年目標の進捗に関しては、生徒は自身について、職員は所属する学年団の生徒について、同じ文言でアンケートを実施した。

アンケート結果の一部抜粋（次ページ資料5）においては、質問2「私は、まっすぐ取り組む姿勢があると思う」という質問に対し、生徒・職員の双方の回答の平均値がほとんど同じだが、職員の意識差が大きいことが分かった。

また、質問3「私は、自ら考え判断、行動する」という質問に対し、生徒と職員の回答の平均値の差が大きく、生徒自身は当てはまると感じていても、職員はそうではないという結果になった。このような活動をする中で、本校は生徒の主体性を伸ばすための教育活動が必要であると分かった。

その結果、授業にグループワークを活用し生徒の自己表現を促す機会が増えた。また、ICTを活用

## 【資料3 簡易版グランドデザイン】



## 【資料4 カリキュラム・マネジメントアンケート】

A 育成したい資質・能力に関するアンケート	
質問1	私は、他者に対する配慮・思いやりの心があると思う
質問2	私は、まっすぐに取り組む姿勢があると思う
質問3	私は、自ら考え判断、行動する力があると思う
質問4	私は、仲間と協力する姿勢があると思う
質問5	私は、困難を前にしても、くじけず、あきらめず、努力できると思う
B 東浦高校の強みとよさに関するアンケート	
質問6	東浦高校は、意欲的な生徒が多いと思う
質問7	東浦高校は、一生懸命な生徒が増えてきたと思う
質問8	東浦高校は、落ちついた生徒が増えてきたと思う
質問9	私は、(現在または過去を振り返って)授業の少人数指導の影響で、学習が向上したと思う
質問10	私は、生徒の進路希望に応じた教育を受けていると思う
質問11	東浦高校は、PTA活動が熱心だと思う
質問12	東浦高校は、地域住民から応援されていると思う
質問13	地域住民の共同意識が強く、東浦高校への関心が高いと思う
C 東浦高校の弱みと課題に関するアンケート	
質問14	私は、家庭学習の定着について十分ではなく課題があると思う
質問15	私または周囲の生徒に、学習意欲が強くない生徒が一定数いると思う
質問16	東浦高校は、授業や連絡指導に対する方針が不明確であると思う
質問17	東浦高校は、教育目標・進路目標を達成した教育活動が不十分であると思う
質問18	東浦高校は、地元以外では学校に対するイメージに課題が残っていると思う
質問19	私の保護者は、働いているなどの理由で、目標達成が取りづらいと思う
D 学年目標に関するアンケート	
質問20	私は、あいさつができる
質問21	私は、遅刻、欠席、早退をしない
質問22	私は、時間、ルールを守ることができる
質問23	私は、礼儀と生活習慣を身につけている
質問24	私は、部活動で遊んでいる

し自主性や生徒の主体性を重んじた授業が増え、職員の意識が変化したことが感じられた。

また、授業以外の教育活動においても改善に取り組んだ。その一つが、8月に開催する高校説明会において実施した在校生と中学生の座談会である。中学生は在校生との交流から、本当に聞きたい高校生活の中身や人柄に触れる経験が得られた。また、在校生、特に3年生で就職試験を控えている生徒は、自分の思いを相手に伝える難しさや大切さを身をもって知るよい経験になり、職員はふだんの授業では感じることが難しい在校生の特長や個性を知ることができた。

### (3) 地域と目標を共有し、連携・協働した実践

本校は東浦町唯一の高校であり、地域からの期待が高い学校である。地域が期待する教育活動とは何であるかを把握するため、東浦町社会福祉法人、地域スポーツクラブチームの関係者、東浦町地域政策課、近隣住民等から意見をいただき、地域連携を主体とした教育活動を考えた。

東浦町社会福祉協議会との連携においては、若者向けに福祉活動の広報用冊子の製作を行うことになった(資料6)。

地域スポーツクラブチームとの連携においては、合同練習会を実施し、交流を深めた(資料7)。

東浦町地域政策課との連携においては、総合的な探究の時間で町の政策や環境などを調べてスライドやポスターを作成し、町で活用できるものを広報資料として提供する予定である。また、その教育活動を神谷東浦町長に直接見ていただく機会を得た(資料8)。神谷町長からの質問を受け、今までの取組を懸命に伝えようとする生徒の積極的な姿が新鮮であった。今後はこの取組を発展させ、将来は若者視点からの政策提言を行えるようにしたい。

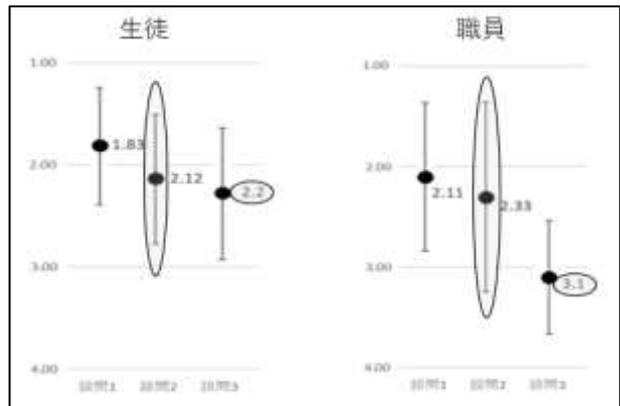
## 3 実践の成果と課題

以上の取組から、グランドデザインを中心とした一つの大きな目標を生徒も職員も共有して取り組む体制が作れたこと、生徒の主体性に重点を置いた授業や教育活動が活発になったこと、地域の要望を反映した教育活動を実施できたこと、大きく3点が学校全体で得られた成果である。課題として、職員一人一人のアイディアに大きく依存している状況もあり、人事異動などで活動が途切れる可能性があることが挙げられる。

## 4 おわりに

今後は、誰もが同じように教育活動に取り組めるよう校内体制や仕組化を進め、特色ある学校づくりを進めたい。

【資料5 アンケート結果(一部抜粋)】



【資料6 東浦町社会福祉協議会関係者のオンライン講話の様子】



【資料7 地域スポーツクラブチームとの集合写真】



【資料8 神谷東浦町長の授業視察の様子】

